

研究テーマ 看護師が感じる患者の急変兆候と行動特性

病 院 名 医療法人社団健育会 西伊豆健育会病院

研 究 者 ^{ながはら みさと}○永原美里(看護師) 宇都宮幸代(看護師) 柴崎智恵(看護師)
相馬葉子(看護師) 藤井聡(看護師) 磯谷里佐(看護師)

概 要

【研究背景】
看護師は患者にとって身近な存在であることから、急変に遭遇することが最も多い職種である。急変対応は急変として発見する前の患者の「何か変」の気付きから始まっており、看護師が日頃の看護実践の中で、どのような患者の様子を急変兆候と捉えているのか、また、急変兆候に気付いた後の行動について明らかにすることで、今後の急変前後の教育に繋げることができるのではないかと考えた。

【研究目的】
日頃の看護実践の中で患者のどのような様子を急変兆候と捉えているのか、また、急変兆候に気付いた後どのような行動を行なっているのか明らかにすることを目的とする。

【研究方法】
1. 研究対象者:A病院2年目以上の看護師26名
2. 調査期間:令和3年7月～8月
3. 調査内容・方法:日頃の看護実践の中で看護師が感じる患者の急変兆候についてインタビューを行う。内容は録音して逐語録化する。
4. 分析方法:逐語録化した内容をチームで分析し、カテゴリー別に分類する。
5. 倫理的配慮:得られたデータは研究目的のみで使用し取り扱うこと、同意書の提出後でも研究の参加についていつでも拒否・辞退できることを書面・口頭で行った。

【結果】
看護師が捉えた患者の様子を類似した内容ごとに分類したところ、19項目の急変兆候の事象が抽出された。この19項目の事象を分析し
①【バイタル測定で得られる事象】②【バイタル測定と五感で観察し得られる事象】③【いつもの患者と比較し得られる事象】の3つのカテゴリーに分類した。

【考察】
①【バイタル測定で得られる事象】は3項目あり、

バイタル測定で得られた数値と基準値を比較することで急変兆候を捉えていた。看護師は、今までの経験から今後起こりうる全身状態の変化を予測し、急変に備え巡視を強化したり、リーダー看護師やチーム、メンバー、医師に報告をしていた。②【バイタル測定と五感で観察し得られる事象】は9項目あり、バイタル測定と看護師の五感を使って患者を観察し、急変兆候を捉えていた。看護師は、バイタル測定と五感を使って患者の変化を読み取り、何が起きているのかアセスメントし、患者の状態をリーダー看護師やチームメンバー、医師に報告していた。③【いつもの患者と比較し得られる事象】は7項目あり、いつもの患者と目の前の患者を比較し、正常・異常のアセスメントをし急変兆候を捉えていた。看護師は、入院時から患者の情報を系統的・効果的に情報収集してこれまでの患者背景や個別性を理解し、得られた情報から比較、アセスメントしていた。

【結論】
看護師が感じる急変兆候の事象は19項目あり、3つのカテゴリーが抽出された。急変兆候を捉えた看護師の行動特性は、自身が持つ知識とこれまでの経験を活かして、バイタル測定で得られた情報、五感を使った観察で得られた情報、患者背景や個別性、カルテやチームメンバーから得られた情報などの患者の情報を効果的に収集し、それを的確にアセスメントし、報告していることが示唆された。

【引用文献】
1) 心肺停止前の臨床症状の異常 Schein
2) 異常を察知した看護師の臨床判断の分析 群馬大学医学部附属病院看護部 杉山厚子
3) 急変場面に遭遇した看護師の感情変化の分析 仙台市立病院医誌 2001 山谷まき
4) 老年看護学 医学書院
5) 看護アセスメント能力の概念分析 足利大学看護学部 2020 川島美佐子